

認知症初期段階における 「大切にしている作業の継続」に関する縦断調査

研究代表者

中西 康祐（名古屋女子大学）

共同研究者

田平 隆行（鹿児島大学） 山口 智晴（群馬医療福祉大学）

石橋 裕（東京都立大学） 横山 和樹（札幌医科大学）

韓 侑熙（国際医療福祉大学）

研究目的

「大切にしている作業の継続」に関する要因を明らかにする

研究意義

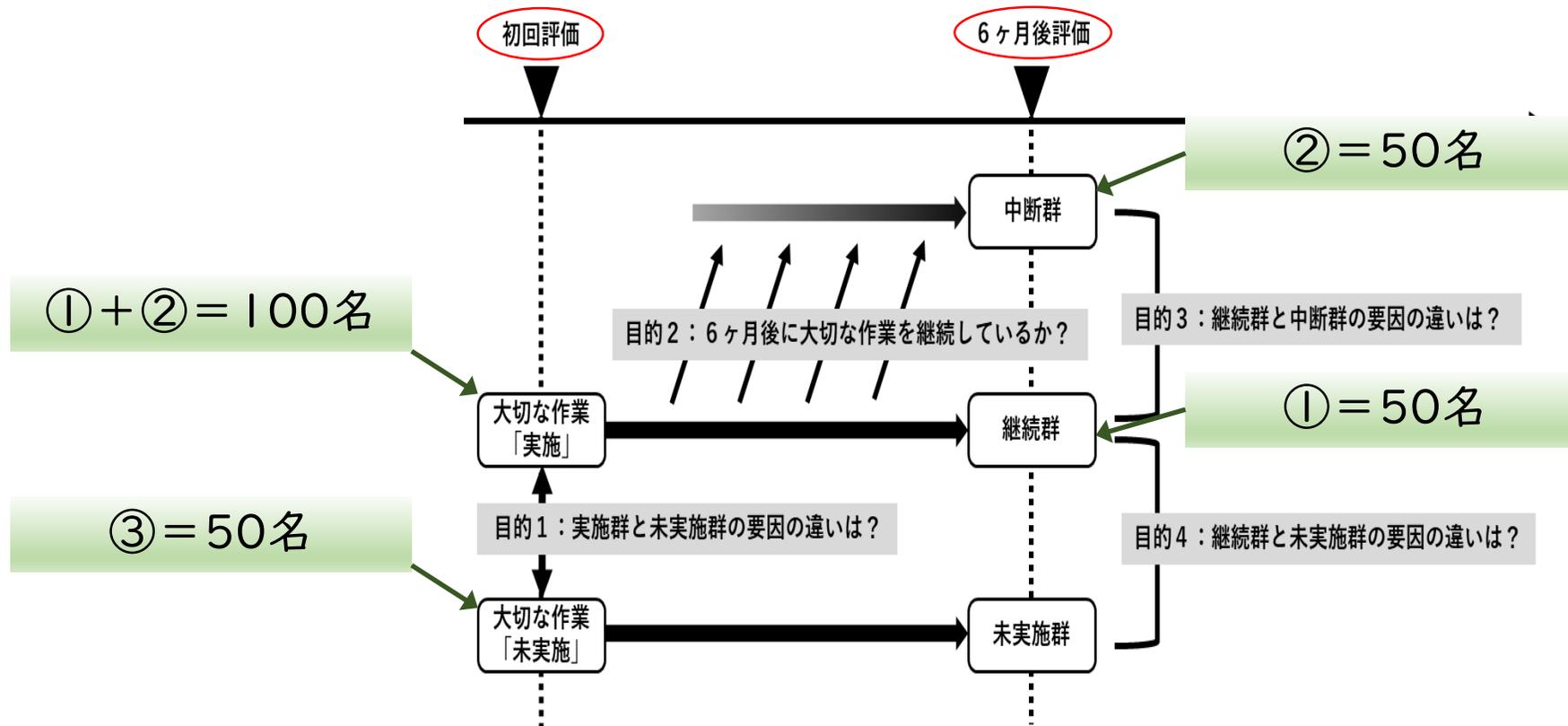
関連や因果関係が分かると、認知症の方の幸せな暮らしの実現に向けた、エビデンスに基づく作業療法の目標と介入の検討が可能になる

研究仮説

「大切にしている作業の継続」は、QOLの高い状態、生活行為の良好な遂行度、認知症関連症状の増大予防、介護負担の軽減等に寄与する

研究デザインの概要図

- ① 作業継続群50人（初回調査時に、大切な作業「実施」群）
- ② 作業中断群50人（初回調査時に、大切な作業「実施」群）
- ③ 作業なし群50人（初回調査時に、大切な作業「未実施」群）



対象者

<選択基準>

- 認知症または軽度認知機能障害（MCI）と診断された方（カルテ等に記載していれば可）
- 認知症と診断された方は、重症度がCDRO.5～2までを対象
- 自宅居住または病院・施設に入院・入所する40歳以上の方
- 「大切にしている作業」があり、初回評価時にそれを聴取できる方

<除外基準>

- 運動器疾患や神経疾患などの身体障害によって生活行為に顕著な影響がある方（大切な作業の遂行にも影響を及ぼしている）

調査場所

- 対象者が入院、入所している施設・病院等
- 対象者が利用している在宅サービス事業所等
- 対象者が居住している自宅（有料ホーム等を含む）

評価ツール

- 重症度 CDR、認知症高齢者日常生活自立度判定基準
- 認知機能 MMSE
- ADL FIM
- IADL Lawton-IADL
- 精神症状 NPI-Q
- 介護負担 J-ZBI
- QOL short QOL-D
- 大切にしている作業 MTDLP聞き取りシート等

実施方法

△ 作業療法士が対象者との普段の関わりの中で、**初回と6ヶ月後の2回**、調査項目を聴取、チェックする

△ 関わり方は、定期・不定期、頻度・時間、直接・間接、担当者の固定・未固定、など問わない

研究期間

令和3年4月1日 ~ 令和6年3月31日（延長の可能性あり）